

TBSモンダイを待つまでもなく、ここ数年のテレビを見てみると、テレビは行きつくところまで行ってしまったという感じを強くします。スキヤングリズムやのぞき趣味は言うに及ばず、煽情的で露骨で嫉妬に満ちた感情をいかにもの美辞麗句で正当化し、われこそはと「正義」の旗をふる。とりわけ、昨年以来の各局競ってのオウム報道は、常軌を逸したオウムの犯罪もさることながら、それ自体が何かがおかしくなっていると思わざるをえないものでした。

「変わらなきや」の時代の要求は、なにも政治や経済や学校ばかりに向けられたものではありません。いまや強大な力をもつマスコミにも向けられている。そういうイミではオウム報道をピークとするテレビのありようと、それにつかず離れずのTBS事件とその後の対応は、テレビの末期を象徴する断末魔のまさしく狂騒曲と見えなくもありません。が、テレビは、私たちにとって他人事の問題ではない。テレビというメディアのもっている豊かな働きとその危うさを再認識したうえで、一つTBSだけではない、テレビ自体の再生を期待してのモンダイテキ特集です。

テレビ7つの大罪



テレビ7つの大罪

自分のいかがわしさを棚にあげ正義の怒りをふり回す憤怒の罪

「出てもらう」のではなく「出してやる」といった顔の高慢の罪

志を忘れて視聴率（カネ）に魂を売った強欲の罪

自分が見たいばかりに水着の女を画面に出したがる肉欲の罪

虎の威を借りるばかりでおのれの能力を磨こうとしない怠惰の罪

恵まれた者へのおのれの嫉妬心を視聴者に伝染^{うつ}す嫉妬の罪

あらゆるものを食いつくし文化の荒野をつくりだす大食の罪

絵・ギュスターヴ・ドレ（3～5頁）



テレビ7つの大罪 をめぐる 大雑談

高橋春男
漫画家



岸田秀
心理学者



橋爪大三郎
社会学者



天野祐吉
コラムニスト



鳥越俊太郎
ジャーナリスト



最近のテレビはものが言いにくなつた

編集部 今日、いまのテレビの抱える「罪」を、それぞれの
お立場から再点検していただこうと考えているんですが、視聴者
としてだけでなく、鳥越さんと天野さんにはテレビに出ていらっ
しやるお立場からも発言いただければと――

鳥越 つまり、被告席ということですね。(笑)

編集部 はい。(笑) それでは、まず被告の鳥越さんから、口火
を切っていただきますようか。いまテレビといえば、なんといつ
てもTBS問題ですが、今回の出来事はどのようにお考えですか
鳥越 TBSの対応については、もちろんいろいろと問題があ
ったと思います。ただ、このところ僕が感じているのは、状況が
ややファシズム的になってきているな、ということなんです。ね
さちんと言わなくてはならない問題さえ、TBSの擁護になりか
ねないとなれば、言えないような状況になってしまっている。そ
れが僕には、やっていてすごくつらいんです。

坂本さん一家の殺害にしても、結果としてTBSがビデオを見
せたからだというイメージが、いまはすっかりできあがってしま
ったでしょう。確かに検察庁は、ビデオを見せたことが動機の形
成につながったと言っているわけですが――

高橋 それって、ほんとにそうなのかなあ。

鳥越 そうなんです。ところが、本当にそうなのかという吟味
を、誰もしていない。以前「サンデープロジェクト」で、そのあ
たりはもう少し冷静になって吟味すべきだという発言をしたら、
鳥越は国民の心がわかっていないと批判を受けたんです。これは
大罪の一つだと思いますが、テレビというメディアはファシズム
を作り、人心を一色に染め上げてしまう作用をもっている。そこ

に、いまの風潮はさらに拍車をかけているわけで、そのことが、
テレビの中にいる人間として、僕にはすごく恐い。

藤田朋子のヘアヌード写真集の事件にしても、あれは本人がヘ
アヌードは出したいと言ったわけでしょう。なのに、どのワ
イドショーも本人がいやがっているものをなぜ出すのかと言わ
ずに、股を開きヘアも出して写真を撮らせておきながら、いまさ
らなんだと藤田朋子と事務所を批難している。

高橋 僕も、あれは不思議で仕方なかった。どうしてみんな、
藤田朋子ばかりを責めるんだろうって。

鳥越 いきさつはいろいろあったんだろうけど、少なくとも本
人が公にしたいくないというものを、僕は出すべきではないと思う
まして発行予定日を二日早めて発行するなんていうのはひどすぎ
る話で、そのことについても、ほとんどのワイドショーは何も言
わなかった。

つまり、ある一定の方向にバーストと走ってしまったものに対し
て、ちよつと待てよとストップをかけるテレビは、いまの日本に
は存在しないんです。これはオウム報道でも同じで、この多様性
のなさ、一色に染め上げられた空気の中に、国民もまた埋没して
しまう。このことほど、いまの僕にとって、恐いと思うことはな
いですね。

高橋 藤田朋子に関しては、雑誌の原稿の中で、僕もちよつと
味方したんです。そしたら、「高橋さん、藤田朋子のファンでし
よ」。(笑) 違うって。

天野 なにかというと、みんなで袋叩きにしよう、という感じ
があるんですね。オウムの件にしても、オウムにだって一分の理
があるんじゃないかなんて言ったら、それこそテレビ局がパンク
するくらいに抗議電話がかかってくる。ただ、テレビというのは、
本来はファシズムを作らないはずなんです。

編集部 アメリカではO・J・シン普森裁判報道がありまし
たが。

鳥越 テレビって、ある程度はそういう側面を持っているん
でしょうね。

橋爪 ファシズムを作るかどうかという点で言えば、天野さん
がおっしゃるように、テレビは作らないということになっていま
す。ただ、一定の方向に走って一色に染まってしまうという傾向
は確かにあって、それがファシズムとは違うとしたら、むしろ近
いのは人民裁判でしょう。視聴者がよってたかって、ある人間を
袋叩きにする。

高橋 精神的リンチですか。

橋爪 そして、騒動が起これば起こるほど、テレビはそれに便
乗して、視聴率を上げていく。ここでのテレビの罪は、いけにえ
を探し、自らの手は汚さずに人民の暴走をけしかける、という点
です。

鳥越 煽動の罪ですね。

岸田 これは新聞でも言えることですが、テレビもリンチが好
きな視聴者の罪を責めたり暴いたりするようなことをすると、反
感を買って視聴率は下がり、新聞は売れなくなる。かと言って、
そのままでいいわけでもなくて、そうした構造に斬りこんでいけ
るような、勇気あるテレビマンはいないものなのか。

鳥越 いないこともないんですが。

高橋 ズバリ自分だって言いたい？

鳥越 いやいや。(笑) とにかく僕は、意見の多様性のないこと
が、すごく気になるんです。しかも、いまはこれだということに
なると、藤田朋子批判なら藤田朋子批判で、そればかりになっち
やう。

高橋 飽きるのも早いんだけど。

高橋 クールなメディアだからね。

天野 そう。ラジオはヒットラーを生み出すけど、テレビはヒ
ットラーを解体させる。なのに、そう言われてきたテレビの中で
こうした現象が起きているところが面白いというか、不思議とい
うか。オウムと同じで、いまTBSにも一分の理があるなんて言
おうものなら――

鳥越 僕みたいになるんです。(笑)

天野 ただ、こうした風土を作ったのもまた、ほかならぬテレ
ビだったわけで、TBSはかつてオウムに対する袋叩き状態を作
り出し、いまは自分が同じ目に遭っている。天に向かつて吐いた
唾が、そのまま落ちてきちゃったみたいだね。

鳥越 いまはワイドショーだけが問題にされてますけど、報道
にしたって、体質はそんなに変わらないんです。いくらオウムが
大変な事件を引き起こしたとはいっても、有罪が確定するまでは
推定無罪の原則がある。もちろんいまの段階では、もはや推定無
罪の域は超えてますが、本来は裁判で決定されるまで、やたらな
罪人扱いはすべきでないんです。でも、そうした原理原則でさえ、
「これだけすべてがあきらかになっているのに何を言ってるんだ」
という声に押し潰されかねない。

天野 確かにテレビの中で、ものが言いにくなりましたね。

岸田 ただ、日本人は、もともと帰属意識が強いんじゃないで
すか。たとえ一人でも反対者が出るのを嫌う。そういう文化をテ
レビは――

鳥越 増幅するんですね。

岸田 そして、そんな日本人のムラ意識に乗っかって、テレビ
は自己拡張を果たしてきた。だから、必ずしもテレビの罪とばか
りは言えないと思いますね。

高橋 じゃあ、こういうのって、日本だけなんですか。

天野 僕なんか、それでもときどきは、一番悪いのは見てるやつらなんじゃないかって、あえて言ったりするんだけど。

高橋 そうそう、オレなんか、相当悪い。(笑)

天野 つまり、大衆というか生活者というか視聴者というか、そういう人たちに対する批評や批判が、いまはまったくないんです。ご機嫌をとり、おだてるだけで。

橋爪 なぜそうなるかと言うと、新聞はお金を出して買っている商品だけど、テレビはただなんです。それだけに、どこまでも無責任になりやすい。人民の「劣情」を刺激すればするほどウケる、だからさらにエスカレートする。そういう構造が現われやすいメディアなんです。

高橋 狂牛病の牛なんです、いまのテレビは。見てると、頭がスポンジになっちゃう。(笑)

鳥越 それでもテレビの一番の特徴は、やはり面白いということだと思えます。いろいろなレベルの、より多くの人を絡めとる力は、この面白さから生まれてくる。かつてフジテレビが「面白くなければテレビじゃない」と言ったのはまさに至言であって、娯楽性にこそテレビの本質はあるんですね。そしてこれは、報道でもワイドショーでも変わらない。

岸田 活字というのはかまえて読まなきゃいけないけれど、テレビは面白ければずっと見る、というのが自然のスタイルですからね。そこが違うといえはおおいに違ふ。

天野 前に山田太一さんが言っていたけど、自分はテレビを見ている人たちに、生活ってなんなんだと問いかけるようなドラマを書きたい。ところが、現実のテレビは、視聴者に自己批評を促すどころか、「オレは生活者だ、文句あつか」という立場に祭り上げてしまった、と言うんですね。

高橋 生活者の立場から言わせてもらおうと(笑)、うちは食事の

テレビは人間に神の視点を与えた

橋爪 テレビというのは、要するに「のぞき」なんです。テレビがなければ見るはずのなかったものを、次々に見ているわけです。本当なら自分の周囲が肉眼で見えるだけで、よその家の中や、まして他人のヘアヌードなんて、見えるはずのないものだった。そういうことのできる人がいたとすれば、唯一それは神様で、神様は人間が何をしているのかを逐一見ている、いわばテレビ的存在だったんです。

なぜ神様にだけそうした特権的な行為が許されたかという、ものすごく高いモラルを持っていたからです。神様は女性の着替えているところを見たからといって、ヘンな気は起こさないし、ほかの人に言いふらしたりもしない。そもそも人間は神様が作ったわけで、作ったものに対する責任もありますしね。そんな神様に比べたら、われわれのモラルの低いことといったらないでしょう。のぞき見を喜ぶような人にのぞき見させるのは、してはいけないことだったんです。

高橋 ということは、テレビはなくしたほうがいい？

橋爪 そうかもしれません。

高橋 困るなあ。僕の場合、仕事にさしかかえるから(笑)でも、テレビの放送時間って長すぎますよね。一日のうち、やってないのって、ほんの何時間かだけじゃないですか。

橋爪 テレビはなくならないし、おそらく放送時間も短くならない。だとすれば、現実的な可能性は、テレビのチャンネルが増えることですね。百とか千になってしまえば、「ねえねえ、藤田朋子が」と言っても、話を通じなくなる。

高橋 それでも日本のテレビって、みんな同じことをやると思

とき、テレビをつけるんです。あれはやっぱりよくないですね。父親たるもの、食事の話題も提供できずに、安易にテレビに頼ってはいけない。(笑)わかっちゃいるんだけど、沈黙がづらいんだよね、テレビが消えてると。消そうかなと思うんだけど、どうしても消せないの。相当スポンジ化してますね、僕の頭も。(笑)

天野 いまTBSは二十四時間体制で視聴者からのファックスを受けつけてるけど、そうすると来るのが「人殺し！」だったり。

高橋 うーむ、やはり日本人は病んでいるな。(笑)

橋爪 昔はお茶の間にテレビはなかったわけで、間がもたなくても、それを通り越せばなにかが始まりました。

高橋 うちではテレビ消したら、夫婦げんかが始まると思う。(笑)

鳥越 それもコミュニケーションの一つの形ですから。

高橋 そうか、それでコミュニケーションがなくなってたのか。セックスもないしなあ。(笑)

鳥越 そこまでテレビのせいにするかって。(笑)

高橋 現代人って、沈黙が恐いんです。だって、いまはどんなときでも音がありますからね。テレビを消したって、ラジオもあればCDもゲームもある。シーンとした瞬間って、ほとんどないんじゃないかな。

岸田 昔の人は、沈黙なんて恐くなかったです。僕らの子供のころはテレビなんてなかったから、晩めしのときはとくに話題がなければ黙って食事して、それが別に不思議でもなんでもなかった。いまは明るい楽しい生活こそが正しいんだ、楽しくあらねばならないんだということになりすぎて、静かな時間が恐くなっているんですね。黙っているとそれは人生を楽しんでいない時間で、なにか損したような気分になる、そういう現代人に、テレビはすごく向いているんじゃないでしょうか。テレビの娯楽番組なんて、はしやいでばかりいるじゃないですか。

う。百チャンネルが、全部藤田朋子。(笑)スポーツ専門チャンネルとか音楽専門チャンネルは別にしてね。いや、スポーツチャンネルもやるかもしれない。スポーツ新聞だってやってたもんね、藤田朋子のこと。(笑)

天野 神の視点という点でいうと、宇宙に行った人って、なぜかみんな神がこっちやうでしょう。みんなが宗教人みたいなことを言います。あれはやっぱり、人間が普通は見られない視覚から地球を見ちゃうからなんじゃないですか。視覚が人間の感覚を変えてしまう。巨視的なものと微視的なものと、普通の人間の感覚からすれば見られなかったようなものを、テレビは見せているわけだけど、そういう視覚を獲得していい気になっているんですね、大衆は。

岸田 そう、大衆を神にしてみました。

高橋 僕は自分のこと、とても神とは思えませんが。(笑)バカですからねえ、はつきり。

岸田 高橋さんのように自分がバカだとわかっていなければいいけど、たいていのバカは、自分のバカをわかっているわけではないわけ。

高橋 バカと言われると、逆にムカついたりして。(笑)

岸田 とにかくそうやって視聴者を思い上がらせることが、テレビの視聴率を上げることに繋がっているんです。見るほうだっておだてられる、いい気持ちにさせてくれるほうがいいんですからね。だから、反対に視聴者に厳しいことを言ったりすると、そっぽを向かれてしまう。「萬朝報」なんかは、日露戦争に反対したおかげで潰れちゃったんですから。

天野 そうやって思い上がった人たちが、TBSの問題に関してさかんに言うのは「正しい報道をしな」ということなんです、正しい報道なんて、はたしてあるんですかね。

高橋 そういえば、「面白い」ならわかるけど、「正しい」って

ワイドショー小史

- 4 初のワイド番組「木島則夫モーニングショー」(テレ朝スタート。初のニュースショーである生中継と新鮮な話題、泣きの木島、人間臭い司会ぶりも受けて、NHKの独壇場だった午前中に新しい可能性を拓いた。
- 10 東京オリンピック。五輪初の生中継を実現し、テレビ五輪の幕開けを告げた。
- 65 4 「モーニングショー」の成功をうけ「スタジオ102」(NHK)「奥さまスタジオ小川宏ショー」(フジ)「土曜ローター」(TBS)などが続々誕生。テレ朝も2本目の「アフタヌーンショー」をスタートさせ、ワイドショーがいつせいに花開く。
- 11 「IPM」(日テレ)スタート。
- 66 1 榎本猛に代わり桂小金治による「アフタヌーンショー」開始。直情型の正義感で、怒りの小金治の異名をとる。
- 2 全日空機羽田沖墜落事故は、ワイドショーによる大掛かりな事故報道の始まりに。東京湾に詰めかけたテレビ局にゆきすぎの批判も。
- 67 7 「小川宏ショー」で全国指名手配犯の写真を放送。二日後犯人の一人が逮捕される。
- 68 1 「アフタヌーンショー」の「指圧教室」に浪越徳治郎が登場。大反響を呼び、一度に一万五千通の投書が殺到したことも。
- 2 金婚老事件が起り、「モーニングショー」が犯人からの電話の声を生中継。
- 4 「3時のあなた」(フジ)が昼下りの「不毛の時間帯」に、殴り込みをかけた。司会高峰三枝子と木元教子。のちに山口淑子が加わり、女優と芸能人の司会が定着する。芸能人のゲスト出演も多く、スタジオのサロンの雰囲気の中、ワイドショーが芸能色を強めていく先駆けに。高峰三枝子の「おふくろ談義」、山口淑子の「男を斬る」、森光子の「シリーズ再会」など、



3時のあなた(フジ68~88)初代司会高峰三枝子と木元教子。ほとんど山口淑子が加わる。



奥様スタジオ 小川宏ショー(フジ65~82)アシスタントは木元教子と露木茂でスタート。



木島則夫モーニングショー(テレ朝64~93)アシスタントの栗原玲児、井上加寿子とともに。



お昼のゴールデンショー(フジ68~71)前田武彦を司会に、コン・ト55号がレギュラー出演した。



アフタヌーンショー(テレ朝65~85)2代目司会者桂小金治。最後の司会者は川崎敬三だった。



スタジオ102(NHK65~80)司会野村泰治、アシスタントは二人の局アナが交代で務めた。

- どヒット企画も多く、番組の人気の主婦の生活のサイクルを変えたといわれる。
- ※ 前田武彦とコン・ト55号による一般公開の「お昼のゴールデンショー」(フジ)、青島幸男と横山ノックの八方破れのニュース解説や身の上相談で人気を集めた「お昼のワイドショー」(日テレ)など、新しいスタイルのワイドショーが登場。エンターテインメント化がすすむ。
- 69 1 東大安田講堂攻防戦が、計22時間30分にわたって特別放送された。
- 7 アポロ11号月面着陸。NHKは35時間の特別番組を放送。同時通訳の存在も知らしめた。
- 8 「小川宏ショー」の「あなたの亭主調べ」コーナーに行きすぎの批判集中。
- 70 3 よど号ハイジャック事件発生。全テレビ局を合わせ一億円がとど報道合戦が展開された。
- 11 三島由紀夫が割腹自殺。占拠した自衛隊総監室のバルコニーでの演説も中継された。
- 71 2 「お昼のワイドショー」の「美しき裸像の思い出」コーナーに主婦の応募が殺到。
- ※ 石坂浩二と浅丘ルリ子、関口宏と西田佐知子などの結婚報道が驚異的な視聴率を記録。スターの結婚・離婚をめぐる独占スクープ合戦が、このころから一気に激化する。
- 72 2 浅間山荘事件。約10時間の長時間生中継の新記録が作られ、5局を合わせた視聴率は、犯人逮捕時には90%に達した。
- 73 7 「3時にあいましよう」(TBS)が始まり「3時のあなた」と激烈な競争を繰り広げる。なかでも愛人殺して逮捕された克美しげるへの取材合戦は、護送中の飛行機内でインタビューするまでにエスカレートした。
- ※ 小型化ビデオカメラなど機材の進化により、番組内のVTRの比重が高くなっていく。
- 8 「3時のあなた」で山口淑子が日本赤軍のリー

- ダー重信房子との単独会見に成功。
- 74 3 ユリ・ゲラーがテレビ生出演。各ワイドショーもこぞって超能力を取り上げた。
- 76 2 ロッキード事件の証人喚問中継は延視聴率33.5%。「記憶にございません」の名言も。
- 77 9 本塁打世界記録達成を前後して、各局の王フィバーが続く。
- 79 3 朝のワイドショーの殻を破る「ズームイン!!朝」(日テレ)が登場。ネット局をフル動員しローカルな話題も満載した番組作りが話題に。
- 4 朝ワイド「ルックルックこんにちは」(日テレ)スタート。「世相談話」の竹村健一が人気。
- 80 10 山口百恵引退。婚約発表から挙式まで、テレビはビッグスターを追いつづけた。
- 82 3 ロングラン番組「小川宏ショー」が17年目で終了。「おはようナイスデイ」(フジ)に。
- 83 6 「モーニングショー」が五千回達成。
- 84 ※ 報道によって社会不安を作り出したグリコ森永事件、ワイドショーによる大捕物となったロス疑惑。いずれもテレビが大きく関わった新型犯罪として大きな注目を浴びた。
- 85 6 取材陣の目前で豊田商事永野会長が刺殺され、残虐シーンの放送に是非論争が巻き起こった。
- 6 2億円の「聖輝の結婚」をテレビ朝日が10時間の独占中継。最高視聴率は35%を記録し、芸能人結婚式のテレビ中継ブームの先駆けに。
- 8 日航機御巣鷹山墜落事故。生存者4名をフジがスクープ。関連番組は1週間で50時間に。
- 9 ロス疑惑の三浦和義がついに迎えたXデー。深夜の逮捕劇を各局がライブで中継した。
- 10 やらせリンチ事件でテレビマンが逮捕され、20年続いた「アフタヌーンショー」終わる。
- 86 5 ダイアナ妃初来日。ロイヤルファッションはワイドショーの定番に。
- 87 7 石原裕次郎死去。テレ朝が本葬の模様を独占生



モーニングEye(TBS84~)森本毅郎で番組スタート。写真は、現在の山本文郎と渡辺真理。



ズームイン!!朝(日テレ79~)「楽しめる情報」をめざす。総合司会は、徳光和夫から福留功男へ。



3時にあいましよう(TBS73~92)初代の船越英二、野際陽子、毒蝮三太夫の司会者トリオ。



お昼のワイドショー(日テレ68~87)参院選当選したの青島幸男と横山ノックが交互に司会。



スーパーワイド(TBS92~)亀和田武と運舩。現在は、運舩に代わって宮崎綾子が司会者席に。



おはようナイスデイ(フジ82~)。向坂樹典、大林典子に硬派の柴田光太郎が加わり話題に。



ルックルックこんにちは(日テレ79~)司会の岸部シローと米森麻美。かつては小池百合子も。



奥様8時半です(TBS72~84)司会も奥様は鈴木彦彦と宮崎綾子。本格的に朝ワイド戦線に。

- 中継し、20%近い視聴率を記録した。
- 89 1 昭和天皇崩御。テレビからCMが消えた。
- 6 美空ひばり死去。20を超える追悼番組が組まれ、密葬生中継は高視聴率をマークした。
- 8 連続幼女誘拐殺人事件。過熱するマスコミに犯人が挑戦状を送りつけるなど、マスメディアが事件のもう一つの舞台となる。
- 90 6 秋篠宮・紀子結婚。早朝5時半から始まった特番は、終日高視聴率をはじきだした。
- 91 1 テレビ初の「戦争の実況中継」。世界が湾岸戦争をリアルタイムで見守った。
- 6 雲仙火砕流で死者43人。マスコミ関係者から犠牲者続出。人命と報道の関係が改めて問われる。
- ※ 上原謙元夫人・大林雅美さんの「悪女」バッシングがワイドショーをにぎわす。
- 92 8 桜田淳子、山崎浩子らを広告塔に、統一協会合同結婚式の様子が流れ、前後して統一協会の話題がワイドショーににぎわった。
- 10 20年以上続いた「3時にあいましよう」が終了。2時からの初の2時間ワイドショー「スーパーワイド」(TBS)として再出発する。
- 93 4 29年間続いた「モーニングショー」が衣替えし「スーパーモーニング」(テレ朝)に。秋の番組改編で午後3時からワイドショーが姿を消した。
- 6 皇太子・雅子結婚。ワイドショーのあまりのフイバーぶりに、ついに自粛の要請も。
- 9 NHKスペシャルの「やらせ」事件と、総選挙報道をめぐる権員良・元テレ朝日報道局長の発言問題が放送界をゆるがす。
- 15 阪神大震災。発生と同時に、テレビがリアルタイムで被害状況を刻々伝えた。
- 3 地下鉄サリン事件。オウム真理教の幹部がワイドショーに連日出演し、青山総本部などが新名所に。上祐ギヤルなる追っかけも生まれた。
- 96 3 TBS坂本弁護士ビデオ問題発覚。

わからないな。

岸田 視聴者はともかく、テレビの側がそんなこと言うのは、ちゃんちゃらおかしいですよ。正しい報道なんてあるわけないし、たとえあったとしても、そこにはこれが正しい報道なんだという判断が必要でしょう。その判断をする権利が自分にあると思った時点で、そのテレビ局はおかしくなってしまうている。

高橋 つまんない報道だったら、いまでもNHKがやってますけど。(笑)

鳥越 確かに正しい報道なんてものはないですね。できるだけ事実に近いことを伝える。取材して自分なりにこれが事実であると思ったものを、努力してなるべく正確に伝える。それが正しい報道のあり方だというならわかるんですが。

橋爪 それだけでもできたら、いまのテレビでは立派な部類です。普通は、自分に責任がかかってこないような立場をとろうとしますからね。たとえば上祐さんがフジテレビの番組で、有毒ガスを撒いたのは創価学会だと発言したことがあったでしょう。私は放送前に、今日は上祐さんがそういうことを言うらしいと小耳にはさんだから、そんなデタラメに決まっていることをテレビのブラウン管で言わせるのはやめたほうがいいと言ったんだけど、テレビ局はおかまいなしに、上祐さんに発言させてしまった。そのときに番組がとったスタンスは、創価学会の人が見ていて、もしウソだったら電話なりファックスなりで抗議してくださいというものでした。つまり、オウム側でも創価学会側でもない中立な立場に逃げ込んで、極端な意見をけしかけたんです。これはあきらかな責任逃れであって、本来は自分たちは自分たちなりに正しいと考える報道をしているんだ、間違ったら責任をとりますという態度をとるべきなんです。

鳥越 ただ、落語や漫才における鈴木本演芸場のように、テレビ

会ってみたい。

鳥越 テレビは活字と違って、何も考えずにボーツと見ても、言葉なり映像なりが頭の中に入ってくる。NHKのニュースなんかは、たて続けにニュースを流すから、追いかけるだけで精一杯で、見る側が頭を働かせる余地がないでしょう。

そこで、民放は考えたんです。キャスターがそのニュースについて一言コメントすることで、その間に視聴者にも考えてもらおう。キャスターが提供しているのは、そのためのきっかけであり材料だという立場ですね。ただ、現実にはそれでもなかなか自分で考えるところまではいかなくて、翌日知り合いに言う意見は、久米宏や筑紫哲也の受け売りだったりするんですが。

天野 たとえばこんな事件があったんですよ。ある田舎の高校で、生徒たちが駅のホームでタバコを喫っているらしいことをつかんだ。そこで、現場を押さえるために、先生がホームの反対側のやぶの中に、こっそりビデオカメラを仕掛けました。ところが、当の生徒たちが、それを見つけてしまった。なにかあそこでピカピカしてるぞ、一体なんなんだと見にいったら、そこでビデオカメラが回っていたんですね。再生してみたら、自分たちが映っているんだけど、その前に、ビデオカメラをセットしてる先生の顔まで映っていた。(笑)

高橋 マヌケだな。(笑)

天野 で、バレちゃったんだけど、このことがワイドショーで取り上げられたのね。キャスターは、こういう陰險な方法で生徒を監視するのは、先生と生徒の信頼関係の絆を切ってしまうことになる、というようなことを言っていたけど、テレビって放っておくと、「そうさそうさ、その通りだ」で終わっちゃうのね。僕の考えてるコメンテーターというのは、そんなとき、一定の方向に向かおうとする意見をむしろ拡散する。いまの話だったら、こ

には自分たちは貸し席業なんだという意識が、けっこう強いんですよ。自分たちで白黒つけるより、いろいろな人に来てもらって、いろいろな意見を言ってもらおう。ワイドショーがコメンテーターを呼ぶのもそのために、一種のディベートの場だと考えているんです。

橋爪 たまにいいコメンテーターが出たりするのは、まったく出ないより、結果的に悪いかもしれないですね。そういう意味で、天野さんのような見識のあるコメンテーターがテレビに出るのは、あまりいいことではないと思う。ズバツといいことを言ったりすれば、視聴者は「おつ、なかなかいいことを言ってるぞ、テレビもけっこういいところがあるじゃないか。じゃあ、ずっとテレビを見ていようか」ということになる。(笑)

天野 じゃあ、鳥越さんも出ないほうがいい。

橋爪 そう。で、一度堕ちるところまで堕ちる。

高橋 見る側も、少しは考えなきゃいけないね。禁煙もいけどたまには禁煙して、今日はテレビのスイッチ入れるのやめておこうとか。そのくらいしないと、朝起きたらテレビつけるの、習慣化してるから。なんて、僕のことですけど。(笑)

岸田 テレビは考えさせませんからね。

高橋 だって考えられないんだもん、テレビ見ると。

岸田 人間は、本を読んだり誰かと議論したりしゃべったりしているときは、あるペースで考えています。ところがテレビは、ブラウン管の中でしゃべっている人の論理が、こちらのペースを無視して入りこんできますから、自分では考えられなくなってしまう。そうやって、視聴者が自分で考えることをダメにする構造になっているんです。

高橋 「朝まで生テレビ」なんて最悪ですよ。うるさくって、頭ヘンになっちゃう。(笑) あれを見ながら考えられる人がいたら、

んなマヌケな先生はみんなに笑われて、かえって先生と生徒の絆が強くなることだってあるかもしれない、と言ってみるとかね。

コメンテーターに限らず、ワイドショーそのもののあり方として、一つのニュースでもヤジ馬的にいろいろな見方ができることを提示して、見る人それぞれに自分なりの判断をしてもらえるようにするのが、僕は理想だと思っているんです。そうじゃないと、テレビというのは自己判断を停止させる、一方的に押しつけるメディアになってしまうと思うんです。

高橋 でも、きつと考えないと思うな、テレビつけてる間は。

天野 ムリかなあ。

高橋 消したあとなら考えるかもしれないけど、たいがいはい思ひ出さないでしょ。(笑) 漫画家はさすがに、ギャグにしくちやならないから考えますけど。

キャスターは司祭者であるか

鳥越 僕はかねてから疑問を抱いてまして、僕は子供のころから活字で育ったわけですね。だから、活字でものごとを考える。そのところが、いまのテレビをはじめとする映像時代に育った子供たちはどうなのか。見ていると、どうも自分から能動的にものを考えていくのが苦手で、わりに受け身になっているような気がするんです。「指示待ち世代」という言葉をよく使っけれど、指示されたことについては、実にうまくきちんとこなしてみせる。ところが、自分から積極的に取り組んだり、こだわっていくとなると、意外に少ないんですね。これはやはりテレビの影響なんじゃないかと。

岸田 マニユアル通りにやらないとできないのも、指示待ちってことですね。女の子と付き合うにしても、最初のデートはこ

いうところに行つて、こういう話をしろとか、マニュアルはきれいに説明してくれる。実際、その通りにやる男もいるらしいし。

高橋 ロボットみたいなんだ。

岸田 どうしてそういう人間が出てきたのかというと、自分で考えてやっても、マニュアル通りにやっても大差ないんです。

高橋 そんなにうまくいくんですか？ マニュアル通りにやるか？

岸田 とんでもない間違いをやる危険はある程度防げるんじゃないですか。それに、この安定した豊かな時代に、自分で考えて道を切り開く必要もあまりないし。マニュアル通りにやれば、失敗したときマニュアルのせいにすることもできます。だからかどうかは知りませんが、若い連中は本当にマニュアル好きです。批判するのは簡単だけど、ラクでたいしてマイナスがなければ、みんなそっちのほうにいくのは当然でしょう。

鳥越 それは豊かな社会だからそうなってきたのか、それとも情報のインプットの仕方によるのか。僕はなんとなく、テレビの影響じゃないかと思つていたんですが。

橋爪 ひと口にテレビと言つても、テレビには二段階あると思うんです。すべて生放送だった時期とビデオが出てきてからの編集可能になった時期と。生放送はどんなに一生懸命やっても、エラーやハプニングがついてまわる。ところが、ビデオ録画が可能になれば、出演者が不適切なことを言ったら切ればいいし、つまらないことでも大きな字幕を出して、いかにも面白そうに演出すればいい。そんなふうに番組を加工できるようになって、こういうことが起きたかという、視聴者が見たくないものは見せない、見たいものは面白く見せる、という方向にテレビが進化したんです。より罪深くなつていった。

天野 まったく同感ですね。たとえばTBSのワイドショーの

ちゃんならない。

高橋 でも、やられてるとわかつていながら見たいと思うのは、やっぱりのせられてるつてことでしょうか。(笑)

天野 ビデオがまったくいけないわけじゃないけど、ビデオに依存しなきゃならない番組ばかりになってるところが、テレビをダメにしている感じはありますね。

ところで、近代ジャーナリズムというのは、十九世紀の初めごろ、起きたばかりの事件をバラードに仕立てて歌つて歩く、「ニュースバラード」というのが起源らしいですね。

鳥越 日本だったら瓦版だね。

天野 村上直之さんの『近代ジャーナリズムの誕生』(岩波書店)で僕も知つただけど、このへんから近代ジャーナリズムが発生したらしい。そんな、ニュースバラードの、事件をエンターテイメントに仕立てて伝えていくやり方は、ワイドショーの手法とよく似ているんですね。どうもわれわれには、事件をただ知りたいんじゃなく、事件の現場に生に立ち会いたいという欲求が、本能的にあるんじゃないか、とも村上さんは言っている。

鳥越 言い替えば、のぞきとも言えるわけですが。

天野 そう、まさに大衆ののぞきの欲望を満たすのが、ニュースバラードの手法だった。新聞は、そんな原初的なジャーナリズムのあり方を知的に洗練して、「正しい報道」にしていっていただけで、テレビはそれを再びニュースバラードに戻したんです。人の本能的欲求に忠実な、人間くさいジャーナリズムを復権させた。

橋爪 しかし、そこには一抹の後ろめたさもあつたわけですね。キャスターは、ある意味で、そうしたものの解毒剤です。テレビでは映像が流れて、しかもそれがビデオだったりするから、生のスタジオとの関係において、どこかで間が持たなくなる。そこで、

「モーニングEye」で、TBSの内部を取材したことがあつたんです。いま視聴者がTBS問題について知りたいのは、街の人や識者の意見よりも当のTBSの社員の意見だということ。しかも、TBSの内部を取材できるのは、当のTBSだけなわけですからね。

ところが、やることはやつただけで、流された映像は、一度ビデオで撮つたものを編集してあつたんですよ。それでも、やらないよりはいいけれど、どうせやるなら生で、それこそレポートがマイクを持つて、TBSの中を歩きながら、片っぱしから社員をつかまえて聞く、というやり方をしてほしかった。時間的なロスもあるし、とんでもないことを言いだすやつもいるだろうけど、手を加えない、生にこだわるべきだったと思うんです。

高橋 でも、やらないでしょう、それは。

天野 担当者は生でやりたかつたらいいんだけどね。いろいろあつて、やっぱり踏み切れなかつたらしい。でも、僕はテレビというの、基本的に生じゃないとダメだと思つているんです。

橋爪 ビデオというのは、作られた嘘ですからね。しかも、視聴者には生もビデオも区別がつかない――

高橋 オレ、わかるよ。

橋爪 生か録画かはつきりしてればわかるでしょうけど、ただ見せられても、画面の違いだけではわからないでしょう。

高橋 そりやそう。そういえば、最近のテレビつて、ビデオの途中で切つておいて、続きは九十秒後とかなんとか言いながら、コマーシャルをはさむでしょ。で、始めるときは途中からじやわからないから、少し戻してスタートする。あれつて、ほんと、いらいらするんだ。

鳥越 CMの間にお客を逃がさないように、予告編を流しておくんです。でも、予告編だから、本編に入れば最初からやらなく

このニュースをどう受けとめたらいいのか、みなさんで考えましよう、みたいにキャスターがしゃべることになるわけです。このキャスターのモデルがなにかというと、牧師とか神父とか、要するに説教師だと思ふんですね。世の中の出来事について話す商売の人はほかにもいるけれど、牧師や神父は話の題材が誰でも同じで、しかも共通のバックボーン(宗教)がある。だから、落ちつくところは大きな。ただ、アメリカのキャスターはこの通りなんだけど、日本のキャスターは似て非なるもので、なんのバックボーンもないまま、ただの個人的感想を述べてしまうんです。しかし、そんなことを聞いても、われわれとしてはなんの足しにもならないわけです。

鳥越 ますます被告席になつてきた。(笑)確かにテレビの世界では、キャスターのことをMCと呼ぶんですよ。結婚披露宴の司会もMCというんですが、マスター・オブ・セレモニー、略してMC。そして、この言葉を辞書で引くと、まさに「司祭者」なんです。アメリカでは最終ランナーという意味で、アンカーと呼ばれてるみたいですが、日本ではなぜキャスターになったのか。キャスターはものを投げたり配ったりする意味だから、ニュース配りの人というわけなのか。

高橋 なんだ、新聞配達じゃなか。(笑)

鳥越 似たようなものかも。椅子の下に輪つかもキャスターだけ。(笑)

高橋 で、タバコはやっぱりキャスターとか。(笑)でも、牧師なんだとしたら、昔だつて教会の説教つて、ただ聞いているだけだったよね、何も考えずに。

岸田 信者が何も考えないからこそ、聖書は二千年も続けて使つてこられたわけです。(笑)

橋爪 そもそも司祭とは、結婚しなかつたり俗世での人生を捨

ワイドショーと私 木元教子

TBSにアナウンサーとして入った昭和三十一年から、実は私、いまのワイドショーにつながるようなところに関わり始めていたんですね。「ニュースリーダー」という早朝番組の、アシスタントがその仕事だったんだけど、ただニュースを読み上げるようなニュース番組がほとんどの中で、かなりくだけた進んだ番組でね、その日の新聞を見ながら、キヤスターの細川隆元さんが解説して私がチャチャを入れたり、政治評論家や政治記者の人たちをゲストに呼んで話を聞いたりしていた。いまのワイドショーのやり方に、かなり近いものだったんです。

その八年後に始まったのが、「木島則夫モーニングショー」(テレビ朝)で、翌四十年にスタートしたのが「奥さまスタジオ 小川宏ショー」(フジ)。私はこのときにはフリーになっていて、露木茂さんと一緒に、この番組のサブ司会になったんです。そして、ニュースショーがいまのワイドショー的内容を入れ出したのは、たぶんこのあたりからじゃないか、と思うんですね。

あのころの自分を振り返ると、なんとなくか、ある種の使命感があったという気がするんです。そのときどきの社会の問題に対し、稚拙かもしれないけれど、

自分たちの能力で伝えられる限り伝えて

いこうという気概があった。私にしても全身でニュースに関わっている、伝えようとしているという実感があったから、ほんとに一生懸命だったし、臨時ニュースや新事実が飛びこんできたりすれば、その場で手書きのフリップを書いて、説明したりしていたのね。

だから、何が起きるかわからなかったけど、あのころのほうが、絶対に迫力はあったと思う。当時は特別コーナー以外放送作家もいなかったから、原稿も自分



小川宏氏(右から2番目)。左端が木元さん。

「小川宏ショー 奥さまスタジオ」(フジ)／司会は

名人の手柄や生きかたを紹介するようなものだった。いわゆるイエロージャーナリズムとは、一線を画していたわけですね。それがあれよあれよと崩れてきたのは、ここ七、八年のことじゃないですか。「3時のあなた」では、一年間司会をやったんです。高峰三枝子さんが月火で、私が水木金。高峰さんは女優さんだから、ファッションや化粧の話題を取り上げたり、スタジオに芸能人が来ておしゃべりしたり、華やかで柔らかな路線が強かったけれど、私のほうは、あくまで硬派なニュースをショー化するのが中心。個性がわかれていたんです。

興味あることはなんでも放りこんで食べてしまおう、そういうこった煮式がワイドショーの特色であり持ち味にもなったのは、はっきりとこのころからです。意識調査なんかでも八〇パーセントの人が必要なニュースはテレビから得る、という時代が到来して、それはそれでいいけれど、みんながそれだけテレビに頼り、テレビを信頼したことが、今度は逆に、テレビに一つの権力を与えることになっていった。だから、今回のTBSの件も、私はテレビが権力を持ったことからくるおごりが原因だったと思っていたんです。世間にチャホヤされたことのつげが、

ここでもビデオだけで完璧と過信しているからだと思えますね。だから、TBSの事件は、けっしてTBSだけの問題じゃない。モンスターになってしまった放送局全体の、歯止めがきかなくなった体質にこそ病因はある。それが、ヤラセだろう、自分たちは伝えてやっているとんだから、という姿勢に結びついていった。そのくせ、本当の自負心は持てないものだから、仕事への評価は視聴率でしか測れなかったりしてるとすけど。

だから、いまのワイドショーに対して言いたいのは、まず謙虚になるべきだということ。マニュアルやテクニクを一度捨てて、何を伝えたいのか、そのためには何を勉強したらいいのか、原点に戻って考え直してほしい。以前に比べれば、技術は想像もできないほど進歩したけれど、皮肉なことにその豊かさに阻まれて、かえって不自由になってしまっているのね。技術の高さがレベルの高さに結びつくどころか、むしろ安易な作りに流れている。昔はものがなかっただけに、アイデアと頭で勝負するしかなかった。それが結果的に、出演者も番組も、いまよりずっとジャーナリスティックなものにしていたんです。(評論家)

たちで書くのが当たり前、いまのように厚い台本があって、ただそれらしくしゃべるんじゃない、みんなが同じテーマでわいわい議論して、なんとしてもやらなきゃならないテーマが発生したら、突然でも全部生中継にしまおうとか、大きく差し替えちゃおう、というようなことを、自分たちでどんどん決めていったんです。私も現場に飛んで、風ですごい髪になったりしながらリポートしたりね。疑問に思うこと、やりたいことはどんどん提案して、けっこうやらせてもらったし、それなりのファイトもあった。そんなふうには体当たりで作っていたから、手紙なんかもらいっぱいきたんです。視聴者からの反応も大きかった。昭和四十年代といえ、いまのように情報があふれていたわけじゃない、むしろ情報に飢えていた時代だった、という背景もあったんでしょうけどね。

それがさらに変わってきたのは、やっぱり「3時のあなた」(フジ)が始まったあたりからじゃないかと思うんです。それまでのニュース一辺倒に、少しずつ芸能色がついてきた。「小川宏ショー」のときも、芸能の話題はあることはあったんです。でも、それはいまのようなスキャンダル報道ではなくて、芸能人や有

てて、教えに精通する専門職なんです。

鳥越 そうか、だからこそ、僕らキャスターは、異常なほどの倫理性を求められるわけですね。ちょっと女性と六本木で飲んだところを写真に撮られたりしたら――

編集部 まずいんですか？

鳥越 まずいでしょう。というか、飲んでもいいんですが、僕がその女性となにか関係があるんじゃないかと思われたら、もうダメです。

岸田 視聴者がテレビに倫理を求めるのは、テレビが倫理をふりかざすからじゃないですか。ワイドショーだって、正義の仮面をかぶって追及するでしょう。自分が倫理的な立場に立っているつもりだから。

高橋 久米宏さんにしても、「僕たち庶民には、ちよつと考えられないような話ですよ」とかつて、しょっちゅう言うじゃないですか。あれって、よしたほうがいいと思うなあ。「僕みたいな金持ちがこういうこと言うのもなんだけど」って言うなら許すけど。(笑)

橋爪 それは大事な指摘ですね。神父や牧師だったら、「私たち庶民は」なんて、絶対に言ったりしません。庶民というのは罪深いわけで、人生を投げうち勉強もしているからこそ、神父や牧師には庶民に説教をする権利がある。けれど、私たちのキャスターは、人生を投げうってもいいし、勉強もしていないでしょう。視聴者の味方をしているという以外に、なんの根拠もないんです。番組を司るための。

天野 じゃあ、司祭の権利を投げうてばいいじゃないですか。あそこでこんなことがあったらいいよって、ただ世間話をしてるだけとか。井戸端会議のリーダーなら、司祭じゃなくてもいいもんね。

ないか、間違わせているんじゃないかという気もする。

高橋 でも、昔から「社会の木鐸」っていうじゃないの、新聞のこと。

岸田 いつごろからなんだろう。

鳥越 明治でしょうね。それも後半。

天野 でも、「萬朝報」の黒岩涙香も「滑稽新聞」の宮武外骨も、木鐸なんて思っていないかったんじゃない？

高橋 社会のキムタク？ いやジャンタクかな。(笑)

天野 どっちかといえば、そっちが近い。

岸田 敗戦後じゃないですか。天皇の権威が落っこちて、代わりに新聞が威張りだしたのは。

橋爪 最初のニュースバラードにしても次の新聞にしても、誰にも束縛されず、勝手に歌ったり作ったりすることができたでしょう。ところが電波は国が管理しているから、テレビは国と無関係には放送することができない。そうすると、おかみとしては、テレビがいかがわしくあつては困るんです。

編集部 いまのワイドショーはいかがわしくくないんですか。確かに出演者はみんな、正しいって顔はしてますけど、見るほうはいかがわしいと思ってる。

橋爪 ただ、ワイドショーにしても、感情的な反応が必要でし

高橋 なんなんだろう、あれって。

天野 ただの世話焼きおばさん。

橋爪 テレビが完全なフィクションであれば、それでもいいんです。でも、テレビは現実を映している、世の中をそのまま映していると思ってるわけでしょう。だとすると、どこかでシリアスでないといけない。いま見ているものはシリアスなんだと説得するための人が必要なんです。だから、キャスターが六本木でヘンなことをしてはいけないというのは、そういうキャスターのテレビには、真実が語られていけないことになってしまふから。

天野 やっぱ鳥越さんは、絶対悪いことができないんだ。

高橋 ちよつとはしてると思うけど。

鳥越 ハハハハ。

天野 でも、そうは言いながらも、人々は聖職者に対して、あの人がだつて完全無欠じゃない、いかがわしいところだつてあるよなあって、みんな思ってるんじゃない？

高橋 聖職者じゃなくて、生殖器。(笑)

鳥越 こらっ。(笑)

橋爪 そこで考えられたのが、人間と職務を分けるというやり方です。これはなかなかうまくいやり方で、人間はダメでも職務は神聖なんですね。ニクソンなんか、まさにその典型でしょう。本人はどうしようもないやつだけど、大統領という職務は神聖だった。だから、大統領でいられたんです。キャスターにもそういうところがあつて、本人に多少問題があつても、キャスターという職務は神聖だということでもっている部分がある。

高橋 よかったですね、鳥越さん。(笑)

天野 それこそニュースバラードのころは、ジャーナリストは自分のいかがわしさを隠さなかつたと思うんです。ヘンに隠すようになったのが、実はジャーナリズムの退廃を招いているんじゃないか。

よう。感情的な反応をするためには、こつちはいいいけどあつちは下劣だとか、なにがしかの基準がないとダメなんです。基準がないと興奮しないから盛り上がりがない。だから、ワイドショーは、あくまで「いい悪い」の尺度を使いながら、いかがわしい番組を作るんです。

岸田 自分は正しくて相手は悪い、とあらゆる人間は思うものなんです。そんな人間の性癖を、ワイドショーはうまくくすぐつてみせる。

高橋 僕なんかはいつも、オレは正しくないんじゃないかと思ってるけど。

岸田 それはどう考えても、自分が正しいと思えないからであつて。(笑)

高橋 その通り。正しいわけないもんね。(笑)

岸田 正しいと思いたいことは思いたいんだけど、ダメだからあきらめてるんですよ。

高橋 いやあ、さすがお見通し。(笑)

橋爪 でも、みんなが高橋さんみたいだったら、テレビは成り立たないわけで。

高橋 そうか、オレはいい視聴者じゃなかつたんだ。(笑)

雄山閣

*価格は税込

史上初――

百四十余の書体を網羅

斬新な線、

規範を超えるかたち

文字デザインと創造に

究極の一冊！

書体大百科字典

★80周年記念出版

B5判上製函入・九六〇頁

発売記念特価二五〇〇円

(平成八年五月末限り)

定価二八〇〇円

四月下旬発売

飯島太千雄編
杉浦康平・宗左近・横尾忠則
他多数推薦
(内容見本呈)

〒102東京都千代田区富士見2-6-9
☎03(3262)3231 振00130-5-1685

ジャーナリストは一匹狼でなければならない

鳥越 僕がテレビや新聞の現場にいて感じるのは、作り手が若い人ばかりだということなんです。新聞記者もデスクになつたりエディターになつたりで四十歳すぎると書かなくなるが、欧米ではライターとして五十、六十になつても書いてる人はいる。だから、結構ハードな現場にも年配の記者が来ていたりするんだけど、日本の報道現場には本当に若い人はいませんね。去年の三月二十二日のオウム真理教への一斉捜査のときも、周りを見渡したら五十歳を越してるのは私だけで、あとは二十代三十代の若い人ばかりだった。

でも、そうすると、人生経験が浅いだけに、やっぱりものの見方が未熟なんです。たとえば筑波の母子殺しなんかにしても、人を殺すという行為の陰には、いろいろと人間的な要素が絡んでいる。そうしたことも理解しつつ、殺人を断罪するならいいんだけど、ややもすれば薄っぺらい理解で、頭から加害者を極悪非道の大悪人のように斬つてしまふ。まあ、僕も若いときは、薄っぺらだったんだろうと思いますが、いや、別にいまが厚くなったと言いたいわけじゃないんだけど。

高橋 でも、思つてるでしょ。

鳥越 多少はね。(笑)

高橋 それ、思ひ上がりつて言うんじゃないですか。(笑)

天野 こらこら。(笑)

鳥越 そりゃあ二十代のときよりは、少しはましになつていないんじゃないですか。そうじゃなかったら困る。(笑)とにかく、年配になるともの作りから離れてしまふ、日本の会社の年功序列の人事システムは問題ですね。

るでしょう。ジャーナリストが国会議員に対して「先生」なんて言う感覚を持てること自体が、僕にはよくわからない。

橋爪 ジャーナリストにとつて政治家は天敵ですからね。

鳥越 それだけは僕も言いたくない。みんなが「先生、先生」言つてると、つい口から出そうになるけど、いけないと思つて、グツと押しとどめてるんです。自分のことにしても、講演なんかに頼まれていくと、先生でもなんでもないのに、司会者に「先生」つて言われたりするのね。そんなときは、「私は先生と呼ばれるほどのバカでなし」つて話をする。そしたら一度、聞いているのが全員学校の先生だったことがあつて、あわてて「私が言つてるのは、永田町の先生のことです」つて説明したりして。(笑)

高橋 ちょっと話が戻るけど、ジャーナリストつて、なんで一人なんですか？

岸田 報道するということは、いわば社会から一步退くことだから、はぐれものになるんですよ、基本的に。

鳥越 高橋さんつて、木枯紋次郎だったんですね。

高橋 あつしには関わりのねーことで、なんて。(笑)

橋爪 漫画を描いて生活を立てているということは、描けなくなつたら食べられなくなるわけで、そこに一種の緊張があるんです。ところが、新聞記者は記事を書けなくなつても、終わりにならないでしょう。管理職に回ればいいんだから。

鳥越 その点、アメリカは終身雇用制じゃないから、日本の会社ジャーナリズムと違って、ジャーナリストも一人ひとりだという原則があるんです。

橋爪 そうですね。ただし、いまの日本のジャーナリズムの形態が日本人の体質からきているというのはおおなる誤解で、明治時代の新聞はアメリカの新聞と同じ考え方だったんです。それが野球が始まつて新聞の拡販に結びついたりしたあたりから、違

岸田 立身出世がえらいとかね。何がどうえらくなるのかはわからないけど。

鳥越 それでも上の地位に向けて、係長課長部長というようなラインがきっちり引かれてる。

橋爪 組織の罪ですね。本来ジャーナリズムは、個人でやる商売ですから、生涯一人のはずなんです。誰にも頼らず、自分の書いたもので日銭を稼いで、初めて成立する。組織でやるものではないんです。

高橋 そうすると、僕ってジャーナリストじゃない？

橋爪 そう、えらいんです、独立独歩なんですから。その代わり、組織の中で守られることはない。

天野 いまのテレビ局つて、お役所みたいだね。

橋爪 大学もそうですよ。大学というのは一人ひとりの学者が、それぞれ自分の学問で商売する場所のはずなのに、実際は組織になつてしまつてから、人間関係なんかでなにかなくなつたりする。

鳥越 かつてのテレビには、新聞やラジオに比べて、社会的なステイタスがなかったんです。それが世の中でだんだん大手を振つて歩くようになると、当然高学歴、端的に言うところ東大卒の人たちがどんどん入るようになってくる。TBSもまさにそうで、磯崎前社長はたまたま東大じゃなかったけど、ともかく東大卒がTBSを官僚化させたんじゃないかと、ずいぶん言われているようです。

岸田 官僚化の体質は、むしろ日本という社会の構造が問題なんじゃないですか。東大卒にその傾向が強く現われるのは、そんなふうに出てくる背景があるからで。

天野 民放の人が国会で喚問されているテレビ中継を見ていると、国会議員の質問に対して「先生のご指摘の通り」とか言つて

うものになつてしまつた。

鳥越 ジャーナリズムというのは、原則的に利益よりも真実を大事にしなくてははいけないんです。それが仕事上の最終倫理であつて、そこがビジネスとは違う。ところが日本のジャーナリズムは会社ジャーナリズムだから、ともすると真実よりも、利益を大事にしがちなんです。今回のTBSの件でも、会社の利益を優先し、真実とはなにかを徹底的に追及しなかったために、最終的に大きな不利益をこうむつてしまつた感がある。

橋爪 ただ、私はそれを「会社の利益」と言うことについては、抵抗がありますね。海外のジャーナリストにしても、利潤を上げるといふ命題があるのは同じですから。それでも外国の場合、株主と経営者と国家の間にはある緊張関係があつて、たとえば「私は国家に文句があるので、この会社を営利して利潤が上がる形で新聞をやるんだ」みたいなスタンスが明確なんです。そこにいくと日本の場合、わが社こそが命、みたいな人たちによる共同体だから、国家との間に緊張関係も存在しない。

岸田 しかも隠すんです。共同体だから、身内の恥はさらさないというところで。日本軍がそうだったでしょう。負けても勝つたと言つていた大本営発表は、日本国や日本国民のためじゃなく、身内の恥をさらさないためでした。TBSの場合も、最初は軽く考えてやつて、途中で「しまった」と気がついたと思います。そこで吐いてしまえばよかったのに、恥をさらしたくないという共同体の意識が働いたんです。

橋爪 そんなときにどうすればいいのか。菅直人さんが頭がよかつたと思うのは、厚生省の中で、身内の恥を暴露グループを作つたことですね。グループを作れば、今度はそれ自体が小さな共同体になるから、より身内度の高い共同体の利益を優先させるようになる。そうやって共同体と共同体をけんかせない限り、健

'95 ワイドショーランキング



②阪神・淡路大震災 126時間08分53秒



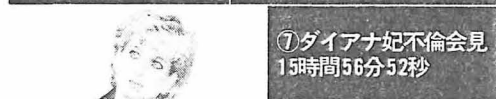
④君島♥十和子騒動 39時間45分26秒

③貴♥景子婚約・挙式・出産 41時間01分53秒



⑥全日空機ハイジャック 20時間44分01秒

⑤デッシー再び合同結婚式 26時間55分11秒



⑦ダイアナ妃不倫会見 15時間56分52秒



⑧〆激ヤセ〆りえ 13時間46分49秒



⑨たけし復帰ノ 13時間04分19秒



⑩羽賀♥アンナベアヌード 12時間22分23秒

①オウムに揺れた'95 1272時間19分05秒

※各項目のランキングおよび時間数は在京テレビ局のワイドショー番組を集計したもの。(TBS「情熱ワイド/ブロードキャスター」お父さんのためのワイドショー講座/95・12・23放送より)

全さは生まれないものなんです。

高橋 しかし、テレビに出る神経ってすごいよね。オレなんかは、テレビに出たらえらいことになるってわかってるから出ないけど。

橋爪 でも、たまに「出ませんか？」って声をかけられると、けっこううれしかったりしません？

高橋 うれしいけど……いや、うれしくないですよ。知らない人に「よっ、春男」なんて言われたりするの、僕にはとても耐えられない(笑)だから、テレビに出る人って、異常とまでは言わないけど、すごい神経の太い人だなんて。

岸田 あきらめてるんですよ、自分のある種の存在のあり方を。テレビに出るからには、知らない人に声をかけられても仕方ないということ。

高橋 オレはやだなあ。

橋爪 でも、どうしても言いたいことがあったら大声で言うしかないけど、現代で一番大きな声といえどテレビですからね。

鳥越 日本中に向けて、特大のスピーカーがついてる。

高橋 だけど、羞恥心とかなくなってしまったよなあ。裸になったって、若い女の子は全然恥ずかしがらない。あれって、どうしたものなんだろう。

岸田 あんなもの、もともと恥ずかしいものじゃなかったんです。恥ずかしがらなきゃならないことになってたから、しょうがなく演技してただけで。(笑)

高橋 じゃあ、無理やり恥ずかしがってたんですか？

岸田 恥ずかしがらなくていいんだってわかったから、恥ずかしがらなくなったんですよ。

高橋 いや、オレは恥ずかしいよ。フリチンでなんて、絶対外を歩けない。(笑)

天野 鳥越さんの意見に僕は賛成で、もしかしたらニュースは一番面白い娯楽かもしれない。

鳥越 天野さんが言われるように、テレビの特長は、発信しているものがすべて情報だということ。しかし、その情報の中身は娯楽性が強いんです。新聞や雑誌に比べてテレビは、見る人の数も見られる時間も、はるかに多いわけでしょう。それはやっぱりテレビの持つ娯楽性なんだろうと思うんです。面白いものに関心を持つ人間の性質を、テレビはちゃんとすくいとって感じるがする。高橋 オレ、テレビを娯楽として見てるかなあ。あるから見てるんじゃないかなあ、時間潰しで。

天野 時間潰しを娯楽というんですよ。

橋爪 テレビは現実の世界に比べて、同じような顔をしながらも、ずっと面白い。それだけに、テレビの世界のほうを本当の世界だと思う人がいても当然だし、若い人は生まれたときからテレビがあつて、テレビの世界こそが真実なんだと感じて育っているかもしれないが、けれども、テレビと現実の間には、必ずズレが存在しているんです。

だって、テレビは安全ですからね。戦争も殺人も危険なものだけれど、テレビに映っている戦争や殺人がこちらに危害を及ぼす

岸田 でも、本当にいやなんだったら、どう言われようと裸になるわけじゃないですか。脱がなきゃ殺されるわけじゃないんだから。だから、ヘアーなんてどうってことないんです。

視聴率主義がテレビをしばっている

天野 テレビを娯楽と報道に分けるのって、僕はおかしいような気がするんです。というか、いまのテレビは、基本的にはみんな報道だと思うのね。歌番組にしても、あれはいまはこういう歌がはやっていて、それをこういう歌手がこういう格好で歌っているという、一つのニュースでしょう。ドラマも山田太一さんが書くようなものは、いま老人問題はこうなっているよとか、夫婦の危機はこういう形で現われているみたいだとか、僕たちが抱えているテーマを、現場中継の感覚でドラマタイズしている。つまり、テレビがやっているのはすべてニュースであり報道であり、ジャーナリズム活動なんですね。ところが、当のテレビ局はそんなふうにはこれっぽっちも考えてなくて、娯楽と報道のバランスがどうしたとか、すぐに言いだしたりする。

鳥越 同じような意味で、僕はまったく正反対に、テレビはすべて娯楽番組だと思っっているんです。テレビの場合、報道も娯楽的要素がないと成り立たない。新聞と違って映像があることで、テレビはボーッとしていても見られることのできる娯楽になっていくわけですからね。

岸田 ところが、娯楽と言い切るには、後ろめたさが残るんだね。「報道のTBS」の「報道」の部分が。(笑)

高橋 「ドラマのTBS」とも言いますが。

岸田 いや、報道のほうだが、ちょっと上だと思ってたんじゃないかな。だからこそ、あんなにあわてふためいてるわけで。

ことはない。でも、あまりにテレビに慣れてしまうと、その落差に気づかないまま、世界は安全なんだと思ってしまうんです。どこかで世界をなめてしまう。

岸田 アダルトビデオのほうで現実の女とのセックスよりいいという男が現われ始めてるというし。

高橋 それ、オレです。ウソウソ。(笑)

岸田 本当の戦場にいれば死ぬのに、テレビだと死なずにいられる。アダルトビデオでは女に下手だと笑われる心配がない。

橋爪 だから、マニユアルになっちゃうんです。アダルトビデオでも、セックスのときはこうしてあして最後はどうしてみたいな、手順というかマニユアルがあるでしょう。そうすると現実の女性がどうであろうとおかまいなしに、そのマニユアル通りに実行してびっくりされるみたいなこと、あるんじゃないですか。

高橋 いきなりすごいヘンなことしちゃったり。(笑)

橋爪 そして、世の中に対しても、たぶん同じことが起こるんです。

岸田 さっきのテレビに出る出ないの話でいえば、それ以前にテレビには、出してやっているとこの感じがありますね。僕がテレビに出るのが好きじゃない理由は、それが大きい。別にテレビに

ディレクター募集!

年齢:25~30歳位迄の男女
資格:経験3年以上
◆クライアントとも外部の
デザイナー・コピーライター
・フォトグラファーとも、
わたり合える強者求ム!
※委細面談、希望給与迄連絡

コピーライター募集!

年齢:23~30歳位迄の男女
資格:経験2年以上
●こだわって、こだわって、
こだわって、でもちゃんと
社会とバランスとれてる人
求ム!
※委細面談、希望給与迄連絡

アシスタント (アルバイト)募集!

年齢:25歳位迄の男女
▲当業界をめざす学生の
応募も可。
※時給1,000円~、交通費別途

CREW CORPORATION

勤務地/東京都台東区小島
2-18-15
KINSHOビル6F 〒111
Fax. にて履歴書とPRツ
ールをお送りください。
Fax. 03-5687-8321
担当:池田
☎03-5687-8320

尊敬されたいわけじゃないけど、失礼ですよ、往々にしてテレビの態度は。

高橋 僕なんかも、イラスト描いてくださいとか頼まれることあるけど、テレビの人って、「明日までに」とか平気で言うんだよね。そんなの、できるわけないだろう、バカヤローって。(笑)

岸田 僕はあるテレビ局から昼前に電話がかかってきて、午後の番組に出てくれと言われたことがあります。あれは、誰かほかの人に断られたんですかね。

橋爪 緊急事態なら許されると思いますが、緊急でしたか？

岸田 全然緊急じゃない、ただの娯楽番組だった。

高橋 娯楽番組が岸田さんを出そうって神経も、よくわからないけど。(笑)

鳥越 テレビには強大な影響力がありますから、若いうちからテレビ局に入って生活していると、なんでも許されるみたいな感覚に、どこか慣れてしまったりするんです。ドラマなんかでも街中でロケーションするとなると、平気で交通を遮断したりしますからね。気をつけなくちゃいけないことです。

岸田 たとえば雑誌だったら、この執筆者との関係は悪くしたくないな、というのがあったりするけど、テレビは違ひたいです。テレビの制作をする友だちに聞いたら、大学教師なんて代わりがいっぱいいるから、いくら機嫌損ねても大丈夫だって言っていた。機嫌を損ねちゃまずいのは、スポンサーだけだそう。

鳥越 新聞でも雑誌でも、活字の場合は自分たちで人脈を一生懸命作るわけですからね。飲んだり食ったり手紙を書いたりして、そこにいくと私たちテレビの人間は、一部の例外を除いて、あまり人脈を持ってない。持ってなくても、番組ができるからでしょうが……。

岸田 そりゃあ、出たがる人がいっぱいいるから。

んじゃない？

高橋 視聴率は悪かったけど、「白線流し」って面白かったなあ。

鳥越 それって、ドラマ？

高橋 そう、普通の高校生が恋をしてどうのこうのって話なんだけど、しみじみさせられてねえ、オレ、もう一回高校生になりたいかと思っちゃった。フジテレビは続編をやるうって検討してるみたいだけど、そういうのって、えらいんじゃない？ 視聴率悪かったのに。

天野 番組を作るとき、この番組は視聴率が三〇パーセントになれば大成功だとか、せめて一〇パーセントは越えないと意味がないとか、そういう読みがあるわけでしょう。でも、いまは五パーセントしかなくても、この部分を掘り下げていけば一五パーセントになるとか、そういうことだってあるわけで、単純に多ければいい、少ないとダメというのは、あまりにも浅はかだね。

高橋 僕の立場から言わせてもらえば、漫画なんて一パーセントの人にわかってもらえればいいと思って描くわけじゃないですか。そういうのって、テレビはないでしょうね。まあ、漫画も人氣がなければ連載切れちゃうけど。

鳥越 現実的な立場から言うと、民放の場合はスポンサーからのCM料でまかなっているだけに、視聴率がそのまま営業に結びついてしまうんです。視聴率が上がらないということは、それだけ視聴者に提供企業の広告が届いていないわけで、そのままならワンクール、半年で打ち切りが待っている。

ただ、視聴率というのは、数字の動きが激しいんです。やたら上下して、ひどいときには同じ番組の中でも、五、六パーセントもの違いが出てくる。そうになると、こんな数字が一体なんになるんだ、というのがなくもないんだけど、かといって、ほかには基

鳥越 リストさえあれば、電話一本で誰でも飛んでくると思っている。実際飛んできてくれる人も多いですからね。自分では思い上がりや傲慢とは気づかずに、いつのまにかそうした思いこみにはまってしまっているんです。

岸田 でも、テレビの側から言えば、それは傲慢じゃないんです。傲慢は、通用しないときに使う言葉だから。

高橋 通用すると、傲慢じゃなくなるんですか？

岸田 共同幻想とは、そういうものですか。

高橋 難しいこと言って、オレをケムに巻いてますね。(笑)

鳥越 それに、テレビ局って、そんなにたくさんあるわけでもないじゃないですか。これがほかにもチャンネルがたくさんあって、いやだったらおまえのそこにはいかないよ、というようなことになってくれば、少しは変わってくるのかもしれないけど。

橋爪 それに、テレビの人というのは、自分はテレビに映らないという大原則があるんですね。新聞記者だったら署名原稿を書いて自分が表に出ていくこともあるし、編集者は表には出なくても、企画の段階で著者と対等につきあわなきゃならなかったりする。新聞記者も雑誌編集者も、そういう形で自分をさらしているんだけど、テレビというのは電波が主役だから、基本的に自分の生身が問われることはない。テレビに映って一番どうしようもないのは、テレビの関係者でしょう。

岸田 普通の人がしたらつかまるようなことをしても、テレビの場合は絶対につかまらない。危険を犯す必要がないんですね。

橋爪 そして、その緊張感のなさからいろいろな悪徳がにじみ出ているのが、いまのテレビなんです。

高橋 オレだって、描くときはこれで文句言われたり、殺されるかもしれないっていうの、あるもんね。

天野 あまりにも視聴率しか問題にしない、という問題もある

準がないもんだから。

高橋 視聴率なんか調査するの、やめたらどうですか？ 三百世帯でも統計としては成り立つのかもしれないけど、どのくらい意味があるのかわからないじゃない。

橋爪 たとえばお墓の広告をするとしたら、そろそろお墓でも買おうかな、と考えている人が見ていれればいいわけでしょう。それは全視聴者の〇・五パーセントしかいないかもしれないけど、でも、バッチリそういう人が見てくれるような番組を作れば、〇・五パーセントの視聴率だって目的は達成される。きちんと視聴者の姿が見えていれば、視聴率を気にするとしても、気にしかたが違うんですね。

鳥越 だからいま、個人別視聴率というのが導入されようとしているんですが。

天野 でも、反対の声も多いらしい。

岸田 それは推理するに、スポンサーに対する説得力の問題でしょう。個別的にどうのこうのといって、あまりにリサーチが細かくなりすぎると、かえって金を出させにくくなる。

天野 視聴率というのは、どこまでいっても結局、昨日の視聴者の姿でしかないんです。そのことを意識して、つねにいまとはズレているんだと考えると、クリエイティブは成立しないんじゃないですか。昨日の実績だけで商売するのは、一番アホな商売のやり方ですからね。まあ、昨日は饅頭がこれだけ売れたから、今日はこれだけ作ろうというのも、一つの根拠ではありますが。

高橋 つまり、経験則ですね。

天野 でも、明日あたるのが、昨日あたるものとは限らない。たとえば初期のレナウンで、あるときタイツの市場調査をしたんです。そしたら一番評判よかったのが黒で、一番人気のなかったのが白だった。看護婦さんみたいだとかってね。ところが、その

'96テレビ各局の 広告キャンペーン

●資料をひっくり返してたら、たまたま1980年のフジテレビの新聞広告が出てきて、そこに90年の当時の「売れっこの」顔が並んでいた。今年の「歌え！フジテレビの歌」に勢揃いした127人と、数人を除いてこれがほとんどダブってない。ま、15年も経ってるから当然かもしれないけど、時代の趨勢とテレビの厳しさを感じたね。

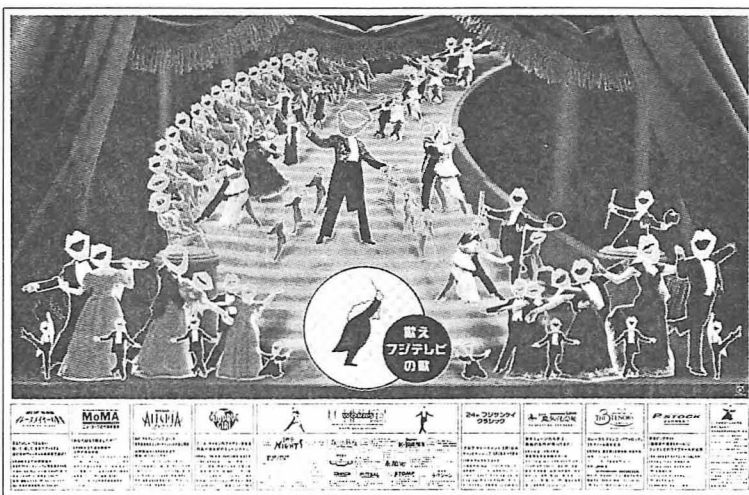
●わざわざ数えたわけ!? しかし、よくも悪くもこれが時代のテレビの顔、とりもなおさず時代の顔のモザイクであることは確かだね。そういう点じゃ、時代のモザイクであるテレビの広告としてはちよつとまい。

●ついつい見ちゃうしね。ところが、三分の一も知った顔がない。いかにテレビを見てないか。あるいは偏ってるか。考えてみたら、ニュースしか見てないものね。

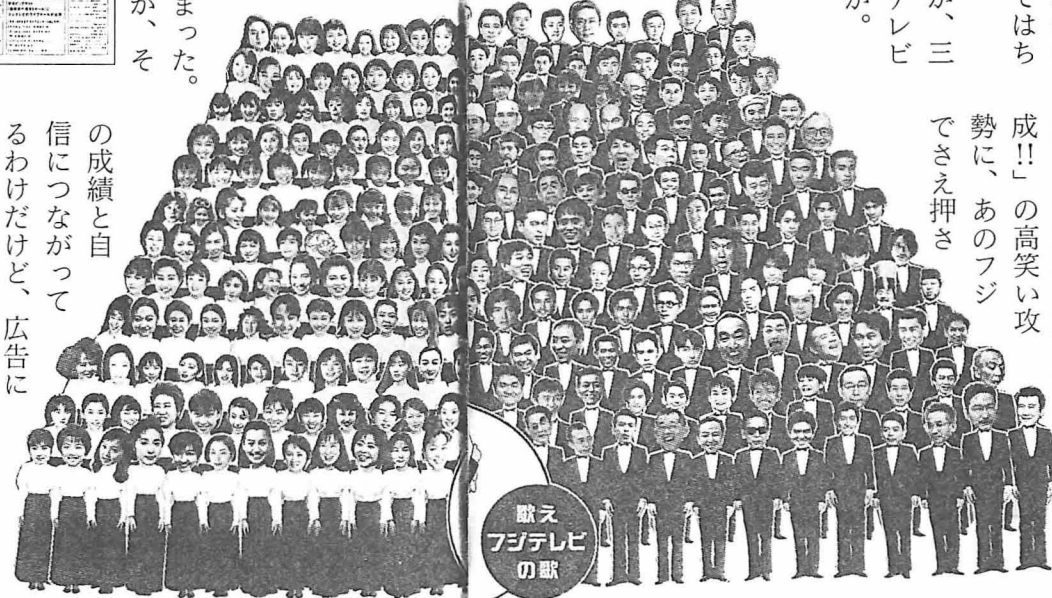
●ただ、前のに比べると、人の顔をあまり大事にしてる感じがしない。タレントが「おもちや」化してるってこともあるんだらうけど。

●今年のフジの「歌え！」は番

の独壇場だった。
●対する日テレは、83年に「おもしろまじめ」をヒットさせたくらい。それが、95年の「それって、日テレ」と前後して、視聴率まで一気にひっくり返してしまった。もちろん個々の番組の積み重ねが、そ



フジテレビ



歌え
フジテレビ
の歌

フジテレビ

の成績と自信につながって
るわけだけど、広告に限っていえば、「おもしろさ」を軸に、テレビとは何か、という問いかけをどこかに感じさせるフジテレビに比べ、「それって、日テレ」って、なにも言っていない。その「感じ」だけが受ける時代ということか。



日本テレビ

れてしまったということか。
●その日テレのはしゃぎぶりは、誰かれかまわず「それって、日テレ」と言わせちゃう、あのキャンペーンに端的に表れていると思うけど、今度の「土日革命」も大ノリだね。

●福澤ナポレオンもいいけど、「革命」を謳うなら、テレビというメディアにモングイテキするくらいの新しさを見せてほしいね。

●テレビ朝日やTBS（今回は自粛？）の広告の言葉が、いまだ活字的なのに比べると、フジと日テレの広告は、テレビのコトバを感じさせるところまでは行かなかった。ただし、視聴率は知らないが、広告の言葉に関して言えば、フジと日テレビや格段の差がある。

●「楽しくなければテレビじゃない」とフジテレビが宣言したのが、82年の正月以来、「国民的なおもしろさ」「おもしろ王国フジテレビ」「テレビに飽きたらフジテレビ」「フジテレビを見なくても生きてはいける」「不意のお客様にフジテレビ」「LOVE」「ルール」「ホント」「哲学」「サービス」「PUSH」「フジテレビがいるよ」と、ずっと、フジテレビ

●とにかく、ロス疑惑のあたりから、テレビのタガがどんどんハズれてる。あるイミではテレビそのものの生理とも関係してるとは思うけど、テレビはもつと「テレビ」を考えていいし、局キャンペーンも、そういう視点はもってほしいね。●おもしろさと同時に、いまテレビはかなりシリアスなところに踏みこんでしまってるわけで、そこに目を届かせた伝え方を一方で考えることは必要だと思う。●広告が深刻になれ、という意味じゃなくて、自分のカラーを自覚した上で、それをどれだけ魅力的なコトバで語っていくかだね。広告で何を言うかを通じて、自局の顔をつくり、スタンス（コンセプト）を確認することもできるんだから。



テレビ朝日

ときの宣伝部長は、一番評判の悪かった白をあえてメインに売り出して、大ヒットさせてしまった。もっとも率の悪いものに賭けることが、実はもっとも率の高いところに届く可能性だってある。そういうチャレンジ精神が、いまの視聴率主義にはまったくないんですね。

鳥越 ただ、現場のほうも、商品の購買層を細分化して、それだけで視聴者のターゲットを合わせるような形になってきてはいるんです。ターゲットに向けて番組を作ろうというのは、当然スポンサーも考えますからね。

そうすると、もっとも可処分所得が多いのは、やはり若い人なんです。お父さんたちは収入が多くても、子供の教育だの家のローンだのと出ていく分も多い。結局、全体に若い人に焦点を合わせた番組作りが増えることになって、ダウンタウンやとんねるずの番組のようなものが、テレビの中では一番大手を振って歩くことになる。

岸田 現代では年寄りが若者に迎合することはあっても、若者は年寄りに迎合しませんからね。

高橋 若いほうがだましやすいとか。

岸田 いやあ、年寄りだってだましやすいですよ。豊田商事なんて、簡単にだましてた。

いまのテレビに明日はない

天野 それにしても、テレビの人って、意外にテレビの機能がわかってないね。

鳥越 僕が新聞からテレビに行って、最初に気づいたのは、テレビ局の人は意外にテレビを見てないってことだったんです。だから、どんな番組が流されてるのか、ほんとに知らない。私はい

話し言葉に対する文化の違いがあるんだと思います。アメリカかって、話し言葉を大事にしますからね。その点、日本は話すことに信をおいてない。嘘をついてる、本音を言っていない、建前かもしれない、みたいな不信感がつねにあって、確かに政治家なんかを見ると、そう思わざるえなかったりするんだけど。

僕も、天野さんのおっしゃることはよくわかるんです。僕がコメントするときも、「三十秒一人しゃべりは、ちょっとつらいな」、ディレクターは必ずそう言います。だから、顔を撮りつづけたとしても、同じアングルで三十秒間撮ることは、まず絶対がない。あっちからこっちから、いろいろに切り換える。それは、視聴者が飽きるだろうと考えるからです、話の中身じゃなく映像的に。

天野 テレビは言葉のメディアであって、絵のメディアじゃないんだってことが、わかってないんです。あくまで絵のメディアだと思いきんでいて。

鳥越 「絵がない」って言い方、よくしますからね。

天野 「ニュース23」だと冒頭で筑紫哲也さんが立ってしゃべるんだけど、なんで立っているのか、僕にはよくわからないんです。「多事争論」のコーナーでも、筑紫さんが一人でしゃべって

までもテレビ見るの大好きですが、テレビ局にいと、テレビが見たくなくなるのかもしれないけどね、バカバカしくって。

天野 僕の体験でいうと、テレビで事件やスキャンダルについてコメントしていると、十秒か十五秒しゃべったところで、画面がパッと、その事件やスキャンダルの資料映像に切り換わるんです。

高橋 そろそろやめてくれって？

天野 違う違う。(笑) そうじゃなくて、僕がしゃべってる姿は十秒しかもたないと、番組を作る人間は考えているんですね。しゃべってる声はバックに流しておいて、関連映像を見せるほうがテレビ的だと思ってる。でも、僕のほうは、そのたびにしゃべる意欲をそがれてしまうんです。

高橋 ディレクターが映したくないだけじゃないの、天野さんの顔を。(笑)

天野 確かに僕の顔は映像としてたいして魅力的じゃないかもしれない。だけど、人間がしゃべるときというのは、話している言葉以外の言葉にならない言葉も含めてしゃべっているわけですよ。それらすべてでテレビの言葉は出来上がっているわけで、音声としての言葉はあくまでもその一部にすぎない。そのことが、テレビを作っている人には、ちっともわかっていないんですね。

橋爪 そこにいくと、CNNの「ラリー・キング・ライブ」なんかは、相当思い切ってるというか、新しいジャンルの番組だと思えますね。ラリー・キングなんて、要するにヘンなおっさんでしょ。カメラはしゃべってるラリー・キングの表情をずっと映していて、視聴者はそこにいろいろなものを読みとって楽しんでいる。ああいうことを、われわれももっとやってもいいような気がする。

鳥越 ああいう番組が成立する背景には、日本とアメリカの、

いる間、カメラはやっぱりこつちから映したりあつちから映したりしてるでしょう。しゃべっている角度が変われば言葉の届き方が変わってしまうんだということ、あれは承知でやっているんだろうかと思う。

鳥越 それは承知の上でしょう。

天野 だとしたら、筑紫さんの言葉をあんまり伝えたくないんじゃないかって、勘ぐりたくなる。

岸田 話し言葉を軽視する体質は、そもそも日本に中国の言葉が入ってきたときに、話し言葉じゃなく、書き言葉の漢文を相手にしたことに出発点があるんじゃないかな。

橋爪 その結果、同音異義語がやたら増えて、聞いているだけでは意味がわかりにくい。そんなこともあって、しゃべり言葉に元気がなくなっただんだと思います。芸人が面白おかしくしゃべらない限り、日本語の話は聞くに耐えないものになってしまった。

天野 たとえば災害のときなんか、よくレポーターがカメラに向かって「付近の住民は口々に怒りと不安の声を洩らしています」なんて、深刻な顔で言ったりするじゃないですか。そんなとき「付近の住民」である子供たちは、レポーターの後ろでVサインを出してふざけていたりする。レポーターのもっともらしい書

'PICNIC'
'FRIED DRAGON FISH'
a Shunji Iwai film

Opening JUNE
CINÉSAISON
SHIBUYA

03-3770-1721

き言葉をバカにして笑いとはしているんだけど、同時にああやって、報道の言葉がいかに記号的でダメな言葉か、テレビは自らバラしているわけですね。

橋爪 シャベリ言葉にも、日本語の場合は漢字が入ってくるわけで、漢字は中国から借りてきたものですから、現実とちゃんと対応ができないんです。むしろ芸のほうで、現実と噛み合っていることで、民衆の信用を得られるんじゃないですか。とすれば、報道よりもバラエティのほうが、テレビとしては見るに耐える、ということにもなってくる。

岸田 ついに、日本語の構造の問題にまできましたね。

橋爪 そのうえ日本に入ってくるときに、間違ってしまった言葉も多いんです。「先生」なんて、中国では特別な敬称じゃない、ただの「さん」という日常語だから、男性だったら誰にでもつけてしまう。それを、「先生」って、ちょっとカッコいいな」と誤解して使った人がいたんでしょう。「先生」一つとってもこれだけズレるとすれば、多かれ少なかれ、ほとんどの漢字がズレていると思うといい。

岸田 やっぱテレビの最大の罪は、嫉妬の正当化じゃないですか。かつて嫉妬は恥ずべきものだったけれど、いまではおっぱらに嫉妬して、少しも悪びれない。嫉妬という恥ずべきものを、テレビは恥ずかしくなく表現できるようにしたんです。

鳥越 ワイドショーなんかは、その最たるものですね。

高橋 あからさまだもんね。芸能レポーターなんて、羞恥心かなぐり捨ててできないみたいなのとあるし。

橋爪 あれはビョーキです。ビョーキの番組にビョーキの人が出てくるという。

鳥越 ビョーキという点では、いまの日本テレビにそれを一番感じますね。

の人だとか、えらそうな人だって実はたいしたことなさそうとか、ありのままを見せてしまう。でも、そうやってすべてを壊していった、最後に何を壊すかというところ、もうあとはテレビくらいしか残っていません。

岸田 ただ、歴史を振り返れば、不動だと思っていたものが壊れたなんてことは、たくさんあったんです。徳川幕府が倒れたときなんか、みんな度肝を抜かれたはずだし。

高橋 ということは、TBSは消えるかもしれない。TBSは消えても、「七人の刑事」は思い出の中に残るけど。(笑)視聴者の側に立つて考えても、テレビをつけない時間は増やしたほうがいいよね。なにかついでと、すぐにスイッチ入れちゃわないで。

鳥越 僕は仕事柄、二十四時間テレビをつけっぱなしなんです。なにかあったらいけないから、情報源として、寝てる時にもつけてる。ただ、音は消しが多いですね。音が聞こえてくると、本を読んだり考えたり邪魔になるから。

高橋 サウンド・オブ・サイレンス。(笑)それはもう、テレビを半分拒否するようなものですよ。

鳥越 テレビ側にすれば、悪い視聴者だね。

天野 深夜の女子大生の水着みたいなのもいいけど――

高橋 なんなんだ、唐突に。そんなの見るの？

天野 見てないけど。

高橋 たまには見てるでしょ。

天野 たまにはね。(笑)ヘンな話になったけど、僕が言いたかったのは、水着もいいけど放送終了したあとの砂嵐のときに、丸い地球の映像をずっと映してほしい、ということだったんです。せっかく人工衛星のカメラもあるんだし。

鳥越 みんなが宇宙飛行士の心境になっちゃうんだ。

天野 そう、部屋という宇宙に、ポツカリ地球が浮かんでいる。

高橋 それって、日テレ？(笑)

鳥越 あのはしゃぎぶりは、ちょっとすごい。

高橋 ナベツネさんは「TBSは人殺しだ」って言ったりしてました。

岸田 似たようなことをやってるからこそ、言わなきゃならないんでしょうね。ケチンボを批判するのはケチンボだ、というのと同じです。

編集部 というわけで、テレビの罪はそろそろ出尽くしたようですが、じゃあ、罪深いテレビはこれからどこにいくのかを。

高橋 テレビがなくなったと、想像してみればいいんじゃないかな。

天野 なくなっても別に困らないものだよ。だからって、なくなってもいいということにはならないけど。

高橋 それを言ったら、漫画だって、なくなったって別に困らない。「広告批評」だってね。(笑)

岸田 なくなってるものってあるんですか。

高橋 髪の毛ぐらいでしょ。(笑)

天野 商品としてなくなると本当に困るのは、米とかしょうゆとか、本当に基本的なものだけだけど、それ以外でも、こういうものがあなたには必要なんですよといって、新たな欲望を作り出し、面白おかしくイベント化していくのが広告だった。そして、ワイドショーもまた、同じような働きをしていたんですね。これも、岸田さん風に言えば、人間はいらぬものでも欲望してしまう欠陥動物だということになるのかもしれないけど。

しかし、あれだけ堅固に見えた大蔵省みたいなものでさえ、ガタガタになってきている、壊れそうもないものがどんどん壊れていくのは、やっぱりテレビ時代と関係があるんじゃないですか。

橋爪 テレビというのは、虚像を剥ぐんです。官僚だって普通

橋爪 それに、いつも同じものが見えていけば、その画面から解放されるんですね。テレビの最大の罪は、見るときによつていつでも違うものが映っていること。ついつつと見てしまつて、時間を支配されることになる。そこから逃れる方法は、一つは拒否すること、もう一つはビデオですが、いずれ通信が本格的にスタートすれば、別の時間と空間が始まつて、テレビから逃れられる日は確実にやってくるでしょう。

高橋 テレビがパソコンの画面にもなる可能性だってありますからね。

橋爪 テレビ見るときにメールが届いたりすれば、当然そつちを見るし、テレビ電話がかかってくれば切り換える。そうやってスタスタになっていけば、テレビもどのみち変わらざるをえない。

高橋 おごる平家はひさしからず。

岸田 おごるテレビもひさしからず。映画が昔とくらべると見る影もなくなったようにね。

橋爪 そのときの決め手は、広告だと思うんです。通信でいま考えられている広告というのは、広告のページをクリックして開くときに、スポンサーからお金を支払われるんですね。広告を見た人に広告主から、じかに銀行の口座に振り込まれる。そうなれば興味のある人しか見ないわけで、広告主としても効率がいいし、視聴者のほうも、テレビでただの広告を見るより、有料の広告をすすんで見るようになるでしょう。そうなればテレビのスポンサーは全部降りて通信に乗りかえ、テレビ会社は滅びることになる。

鳥越 ただ、広告というのはまだその商品に対して関心を持っていない人に関心を持たせる、という機能も持っているんですね。

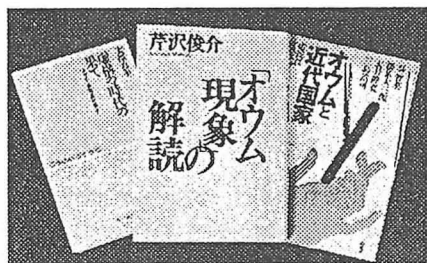
橋爪 つまり、欲望を作り出すわけですが、欲望を作る装置は、テレビ以外の場所でも作ることが可能です。

1996年(平成8年)7月7日(日曜日)

おまけ

「オウムが、あるいはオウムのなものが、私自身もそうでありうる可能性を示している、という自覚なしには、このようなものを書くことはなかつただろう」。一九五八年生まれの社会学者大沢真幸氏は近刊の『虚構の時代の果て』（ちくま新書）にこう記した。

オウムが抱いていたハルマゲドン思想のくだらなさを嘲笑（ちやうしょう）するのにはたやすい。だが、その「くだらなさ」が特殊でない多くの人の行動をとらえてしまった根拠にまでさかのほれば、社会的な分析に大切な意味が出てくる。



「オウム」生む社会を解読

ウムの場合は不幸が何もないという空虚さが入信動機となっている。サブカルチャーのパロディーや空虚さの克服が現実の全否定へと暴走していったのはなぜなのか。

大沢氏は「近代」のルーツを古代ユダヤ教の一神教

~~~~~

オウム真理教を論じる著作物の刊行が相次いでいる

それ自体はむき出しのロジックだが、そこに冷戦の崩壊や自殺本の流行に見る生の無意味化といった時代相を重ねていく。

評論家の芹沢俊介氏は「イエスの方舟」をはじめ、日本の新しい宗教に注目してきた。近著『オウム現象』の解説（筑摩書房）の中で同氏はオウム真理教は突然変異ではなく、ニュウ

内向から「自分探し」が始まり、「自分が変われば世界が変わる」というニューエイジの流れに合流していた。日本の戦後五十年はこの「自分探し」が露出する過程だったという。

社会学者、橋爪大三郎氏の分析によれば、戦後の日本人は自らの意志で体制を選んでいないコンプレックスを持続したという（南

文化部 内田洋一

れた。若者たちの「身体や意識を束縛と感じる感受性」（芹沢氏）、それを乗り越えるための超能力への関心は、むしろ進行しているかに見える。オウムのものをいかにして超えるか。大沢氏は社会学的な考察、格闘の果てに「他者に対する徹底した寛容」とい

ウェーブ

これまで指摘されている通り、大沢氏もオウムの思

想を終末イメージに彩られた七、八〇年代サブカルチャーのパロディーと見る。

例えば、教団施設にあった空気清浄器と人気アニメ「宇宙戦艦ヤマト」に出てくる放射能除去装置の名前が同じ「コスモクリーナー」だったといった点を確認する。過去の新興宗教では、貧困や病気が入信を促すことが多かったのに対し、オ

にさかのぼり、救済へと直線的に発展する時間の流れ方を分析する。そして、その近代の論理を戦後日本にあてはめる。社会変革の理想が否定された後、なお理想の純化を目指すば、論理的に理想は自己否定され、虚構の肯定を招く。それが現実の否定、世界の破壊へとつながっていくというの

ニューエイジとは、新靈性運動ともいわれ、一九七〇年ごろから同時に先進国の都市で展開している運動。芹沢氏はこんなふうに分析する。若者の優しさは「心配をかけないという形で働きかけをやめる」ように変容し、やがて人間関係の不全をもたらした。その

風社刊「オウムと近代国家」。子供は親から「自由にしたい」という指示と「これをしてはいけない」という禁止を同時に示されると精神的に分裂する。専門用語でいうダブルバインド状況がアメリカと日本の間にあり、オウムもまた、この戦後の精神構造の中にあると橋爪氏は指摘する。教団が極端な反米主義だった

天野 僕が最近、自分の欲望がどこにあるかを発見しているのは、「通販生活」という雑誌なんです。ほしかったのに自分でも気づいていない商品とはこういうものだったのかと、ああいうカタログを見ていて思ったりする。

鳥越 通信販売のカタログって、ついつい見ちゃいますね、飛行機に乗ったりすると。

天野 広告主が全部降りてしまったときに、なおかつ残るのは有料テレビでしょうね。金を払っても見たいというものがあれば、成立していけるんだから。

高橋 うちがTBSは見ないから払わないとか。そうすると、ガスとか電話みたいに止められちゃうわけ。

天野 放送法が壊れてしまったり、そこまでいかなくても放送の免許が規制緩和されれば、誰でもやれるようになるんだし。

鳥越 アメリカのラジオなんかはそうですね。テレビはさすがにそこまでいってませんけど。

天野 向こうのラジオ局って、五、六人でやってるでしょう。テレビ局も、いずれそんなふうになるのかもしれない。

高橋 インターネットのホームページなら、いまでも誰でも作れるでしょう。あれって、うれしいよね。僕も高橋春男のホームページを作って、見てもらいたい。そこを開けば僕のすべてがわかる、とかさ。(笑)

天野 家でテレビ局やってるようなものだもんね。

高橋 雑誌に出す前の漫画は百円払わないと見られないようにしておいたりすると、二度もうけられて、いいですよ。

高橋 別にもうけなくてもいいんだけど、店を持てるっていう

のがいいんだよね。誰かが指定してくれば、見てもらえるわけですよ。やっぱり時代はインターネットで変わるんじゃないですか。テレビは滅びちゃってます。

天野 でも、鳥越さんの顔見てニュース聞かないと、寝られないって女の人もいるかもしれないじゃない。

高橋 でも、ニュースはニュースですからね。誰の口から出たからいいってこともないでしょう。

岸田 いや、歌だって誰が歌ったって同じフレーズだけど、どの歌手が歌ったかで違ってくる。

高橋 そうか、ニュースキャスターって歌手だったんだ。

天野 もともと「ニュースバラード」っていうくらいだからね。

鳥越 実感でいうと、ドサ回りの演歌歌手。

天野 でも、鳥越節とか久米節とか筑紫節でノドを競ってる。そういう意味ではワイドショーだって、話題は一緒でも、それぞれ独特のセンスで歌ってくればいいわけだ。

高橋 じゃあ、フォークでもロックでもいいはずなのに、みんな演歌なのはなぜ？ 今度のテレビ朝は水前寺清子だし。(笑) オレだったらブルースで歌うな。しかし、鳥越さんがいくら頑張っても、やっぱりテレビは末期的症状だよ。オレなんかにさえ、どうしようもないって思われてんだから。

岸田 というわけで、テレビは滅びることになりました。(笑)

高橋 この次テレビについて話す機会があったりすると、鳥越さんなんかポロポロのホームレスみたいになっちゃってさ、「高橋くん、仕事ないかね」なんて言ってるかも。楽しみだなあ。(笑)

(4月5日 赤坂にて)